（１）岸和田城天守閣耐震対策にかかる方向性（案）について

①建造物としての価値及び展示について	
第１回岸和田城天守閣耐震対策検討委員会　課題・意見・指摘	今後の方向性（案）
➢ 建造物としての文化財的価値や観光的価値を明確にしてほしい。 ※主軸とする価値として、八陣の庭の展望場所としての価値は外してはならない。 ※城の価値によって、耐震補強の方法が変わってくる。 例えば、展示に大きな価値を置く場合、展示スペース確保のために、補強壁の増設以外の方法を取る必要があり、費用が大きくなる。 ➢ 耐震補強のみに特化せず、観光資源や市民のシンボル的存在であることを考慮した検討が必要である。 ➢ 現在、文化財や観光資源が点在しているが、天守閣を含めて周辺を面的に活かせるよう検討した方が良い。	・観光活用及び資金調達検討連絡調整会議の検討案 ⇒現在の天守も十分に歴史的価値があるため、建替えではなく耐震補強で検討。役割としては、現状の資料展示機能を二の丸広場観光交流センターに移し、情報発信及び交流機能を新たな岸和田城の役割とする方向性で検討。（岸和田城と観光交流センターの役割を入れ替える）

資料④

岸和田城天守閣耐震対策に係る観光活用及び資金調達検討連絡調整会議による検討	
岸和田城天守閣耐震対策にかかる観光活用及び資金調達連絡調整会議課題	検討内容
◎ｐ３の選択肢を事務局より提案し協議。 ➢ 現状での再来訪者はどれぐらいいるか調査すべき。また来訪者の目的についても確認しておくべき。 ➢ 耐震補強によりどれほど長寿命化できるのか。 ➢ 城周辺の施設や文化財等も含めた活用について検討が必要。 ➢ バリアフリー化についてどのように考えるか。	⇒来場者へのアンケート調査によるリピート率及び来場目的の把握を行う。（ｐ4） ⇒耐震補強は長寿命化ではなく安全性の確保である。岸和田城は富山城に次いで２番目に古い戦後の復興天守であり、現状の天守でも歴史的価値があるため、建替えではなく耐震補強で検討。 ⇒岸和田城の資料展示機能と観光交流センターの情報発信・交流機能を入替し、活用の幅を広げる方向で検討。 ⇒バリアフリー化は天守閣の役割の一つである八陣の庭の視点場としての活用範囲を拡大するためにも実施の方向で検討。

※連絡調整会議参加委員：企画課、広報広聴課、水とみどり課、阪口委員、大阪府文化財保護課（オブザーバー）

〇協議結果

・「観光交流センターと機能入替の方向性で検討する。」ことについて全委員承認。

〇付帯意見要旨

・将来的に岸和田城の利活用の向上を図るためには、城・交流センター及び千亀利公園の一元的な管理・運用が効果的である。また、だんじり会館等の施設、八陣の庭等の文化財も含めた城周辺の資源を活用し、エリアとしての展開・集客が図れる展開の検討が必要。

・天守閣の耐震対策には多額の資金を要することから、目下の課題を解決するための議論に加え、中長期的な課題やリスクについても、継続した検討が必要。

岸和田城改修後の役割の選択肢

	①現状維持（資料館）	②観光交流センターと機能入替
コスト	〈合計〉 約６億円 〈内訳〉 ・耐震補強 ・内装リフォーム ・展示ケース入替 ・収蔵庫　　等	〈合計〉 ６億３千万 〈内訳〉 ・城の補強、リフォーム：５億 ・交流センターに展示ケースを約 30 個設置：約１億 ・収蔵庫の設置：約３千万　　等
展示有効スペース	約 103.65 ㎡⇒約 39.5 ㎡	約 103.65 ㎡⇒約 100 ㎡
その他	・展示スペースが大幅に（現状の４割程度）減少する （※国名勝指定地内であるため、庭や城の歴史に関する情報発信が必要）	・現状の展示スペースをほぼ維持できる ・城に観光交流センターの役割を持たせることで、これまでとは違った客層にアプローチができる（集客増加を期待できる） ・城の内部はグラフィックによる情報発信を中心とし、交流スペースも設ける

耐震対策後の岸和田城天守閣の役割（案）について

・方向性検討経緯

利用意向調査により、現状の岸和田城来場者の需要等を把握するため、令和３年 12 月４日より、岸和田城の来場者に対しアンケートを実施した。令和４年１月９日までで 1,389 の有効回答数があり、その結果は別紙のとおり。

・アンケート調査結果（資料④別紙）の考察

リピート率（２回目以上の来場者÷初回来場者×100）

303÷1086×100＝27.900…　　27.9%

平成 29 年度大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議の資料より、来阪外国人旅行者のリピート率が 37.0%であり、岸和田城のリピート率は全国平均より少し下回ってはいるものの、大きな差がないことがわかる。また、訪問目的の 70%が天守閣との回答であり、城内の展示を目的とする方は全体の 3%にとどまったため、天守閣から展示機能を観光交流センターに移したとしても、天守閣へ入場できる用途を維持できれば、来場者数の減少にはつながらないと考えられる。

なお、展示機能については、現岸和田市まちづくりビジョンにおいて、岸和田城周辺地区が歴史文化ゾーンとして位置付けられていることや、岸和田城跡が大阪府指定史跡、岸和田城庭園（八陣の庭）が国指定名勝であることから、歴史文化のガイダンスを周辺で実施するように文化庁から求められているため、引き続き城周辺で歴史文化のガイダンスを実施する必要がある。現在その役割を担う天守閣を今後観光交流センターとするならば、現状の公共施設を統廃合し少しでも削減している方針のなか、新たに建築することは現実的でないため、現在の観光交流センターが今後歴史文化のガイダンス機能を持った施設とするのに最も適切であると考えられる。

以上から、アンケート調査は１月中頃まで継続するが、現時点では、改修後の役割の選択肢について②のほうが今後の活用についてメリットが大きいと考えられるため、天守閣から展示機能を観光交流センターに移し、天守閣は情報発信及び交流機能の役割を担う方向で検討する。（壁を使ったパネル展示や、一部少ないスペースでの展示は実施して情報発信機能は残しつつ、市民の憩いの場としての休憩スペース等を設置する想定。）